# 里地・里山活性化プロジェクト
# ～都市と地方を環境教育で結ぶ～

甲野　毅　教授
（家政学部　ライフデザイン学科）

【目的】

全国で耕作放棄地が増加し、また人の手により管理されるべき森林が放棄され、その結果、里地・里山が荒廃している。また現在の子供たちは自然と触れ合う機会が減少しており、自然との距離が開いている状態にあると言える。そこでこれらの問題を解決するために、私達が実施することは、実際に耕作放棄地や森林に手を入れ、農産物を栽培し管理することで里地・里山を良好にすること、またその現状を都市住民に伝え関心を喚起すること、さらに都市に住む子供達に自然と触れ合う環境教育の機会を提供することである。

【活動内容】

里地・里山での活動では、環境教育プログラムに使用できる可能性のあるハーブ類、サツマイモや果樹のブドウを NPO 法人が北杜市を通して借りている耕作放棄地で、学生が栽培した。これらの管理は草刈り、施肥、潅水、収穫、獣害対策など多岐にわたるので、地域住民の協力を得ながら行った。また同時に耕作放棄地を活用した地域活性化プランを考案し、地域住民に提案することを通し、学生の課題解決能力の向上を図った。

都市での活動では、行政と協働して立川市の環境イベントに参加し、また立川市では学生独自の環境教育プログラムを実施した。そこでは耕作放棄地から産出された農産物や森林をテーマにした環境教育プログラムを企画、実施した。また学園祭では、里地・里山の現状また地域を活性化させるためのプランを、来訪者に発表し、都市住民の問題への関心の向上を図った。

| 日程 | 内容　※１は里地・里山での活動　※２は都市活動での活動 |
|---|---|
| 5～6 月 | 耕作放棄地フィールドワーク　地域住民などからのレクチャー※１<br>苗の植付け（ハーブ・サツマイモ・ブドウ）※１ |
| 5～7 月 | 環境教育プログラムの企画※２<br>耕作放棄地を活用した地域活性化プランの考案※１ |
| 7 月 | 学生による地域活性化プラン地域住民への提案（オンライン）※２ |
| 6～9 月 | 学生による耕作放棄地の管理（夏の草刈り・潅水・森林管理）※１<br>（地域住民、教員による耕作放棄地の管理） |
| 10 月 | 学生による耕作放棄地での収穫※１ |
| 10 月 | 立川市環境フェアー参加　環境教育プログラムの実施※２ |
| 10 月 | 大妻女子大学学園祭参加　環境教育プログラムの実施※２ |
| 11 月 | 立川市環境教育プログラムの実施※２ |
| 12～2 月 | 地域連携プロジェクトブクレット作り・立川市環境会議参加 |

**立川市環境イベント（立川市環境フェアー）**



学生が考えた環境教育プログラムの実施





パネル、クイズ、クラフトを駆使し人工林の現状を伝える

大妻女子大学園祭・立川市環境教育プログラム




学祭で農作物を無料配布・パネル展示




ゼミ内で企画内容を考案し、立川市と協議・実施

【結果】

立川市環境イベントでは、60 名の子供達に里山から排出される間伐材の利用促進を図る体験をしてもらった。自然体験教育プログラムでは、都市公園を 4 つのゾーンに分け、20 名の子供達に 4 種類の自然体験教育を実施することができた。そして大妻祭では、教室に里地・里山を出現させる演出をし、100 名の来訪者に里地・里山を体感するプログラムを実施した。

これらの活動の効果の第 1 は、耕作放棄地が継続管理されることで新たな地域環境問題の発生が抑制された。また学生による地域活性化プランの提案が、地域住民に良いアイデアとなる可能性があった。第 2 に、子供への環境教育を行うことで、子供達の成長に良い効果を与えた。また成人にも里地・里山の現状を伝えることが出来、関心を喚起することができた。第 3 に、学生自身が主体となって行うことで、企画、実践力や課題解決能力を身につけることができた。




地域連携プロジェクトの内容と SDGs コンテストに参加した際のスライドから成るブックレット